浜町から 風の便り 52

2023（令和5）/2/1. 船橋市浜町 辻 秀幸

へーンシーン！

浜町の隣り、湊町の行法寺（ぎょうぼうじ）に孫悟空が来ていた。怪猿である。出自は中国に住むキンシコウ（オナガザル科シシバナザル属）かアカゲザル（同マカク属）ではないかとうわさされる。

中国唐代に、天竺へ仏教の経典を求めて危険な旅に出た訳経僧・玄奘三蔵をガードした顛末が『西遊記』で紹介されて日本でも有名となった。

現在は、道鏡の神・斉天大聖（せいてんたいせい）として尊崇される。

行法寺には観音様の掌に乗って現われた。なんだかんだあったりやったりしても全ては仏さまの手の内の出来事ということか。なんかとても奥深く意味深長なことをわからせようとしているように思えるし、寄進されて仕方なく玄関にやって来ただけ、とも見て取れる。

日本での人気に応えて少年の姿でアニメ『ドラゴンボール』に登場して西遊記とは別の活躍が紹介された。絵にしたのは鳥山明大先生。

私が住む町にはキツネがいる。ただのキツネではない。正一位伏見稲荷大明神の使わしめである。

キツネは陰険な化け方をして人間に嫌われる。その反面、稲の大敵ネズミを食ってくれるからと神社に奉られる。

キツネ目の男が世間を騒がせたことがある。逃げ果せたところから察すると正体はキツネだったのかもしれない。

ネコも、化けて現れて嫌われたりネズミ退治で有難がられたりと二面性を持つ。

喜ばれるのが招き猫。

最初に現れたのはいつどこか。諸説ある一つを紹介すると、江戸時代、世田谷区の豪徳寺。先祖ネコが、門であくびして顔をぬぐったところ、通りかかった武士が手招きされたと勘違いして寺に入った。とたんに大落雷。危うく命拾いした武士が、ネコが招いてくれたからだと感謝して寺に寄進し、有難い招き猫だって有名になった、ンだとさ。

勘ぐれば、寺か茶店が金儲け目当てでこしらえた話というところだろうけれど、野暮は言わネーのが江戸ッ子デゴワス。

写真の招き猫は、私がしばらく勤務した売店で、すでに店番をしていた。隅っこに置かれて拗ねていたのか、あまり威力を発揮していないように見えた。

左手（前脚）を上げているが、得意技の違いで右手とか、両手を上げる仲間がいる。体色もいろいろ。両手を上げるのは、オテアゲ降参だと言って嫌われることもある。招き猫頼みもほどほどに。

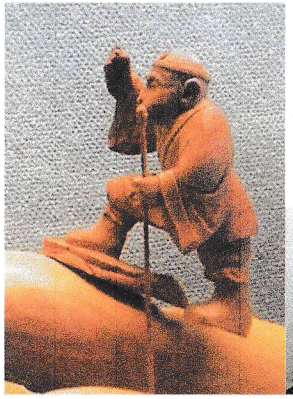
キツネやネコ以上に色々な面を持つのが人間。二面性どころではない。時により所により別人になる。

般若坊という人がそういう人間の一面を表わそうと彫ったお面が後に般若と呼ばれるようになる。女性の、妬み苦しみ怒りの極まった様子と言われるが、人並みになりたい普通になりたいと悩んでもいるに違いない。

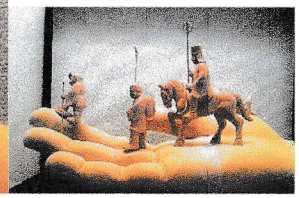
般若の面は、見る者の心を写して、ある時は怒りに燃えて見え、またある時は苦しみ悩む様子に見える。助けを求めているように見えることもある。女性だけが般若の心を持っているのではない。

般若という言葉自体は仏教用語で、真理を認識し、悟りを開くはたらき、最高の智慧のこと。と知ると鬼に化した女性であるという般若も奥深く崇高にさえ思えてくる。

ある高僧は、やだやだ死にたくないといいつつ死んだという。人間は悩む生きもの。悟りを得て仏様になれたのはゴータマ・シッダールタだけ。私なんざとても悟りのサに近づくことさえできない。心は般若に違いない、と言いたいところだが、それほど苦悩してもいない。楽しい夢を見ているうちにあの世に行きたい。



孫悟空　哺乳類・霊長目・怪猿科



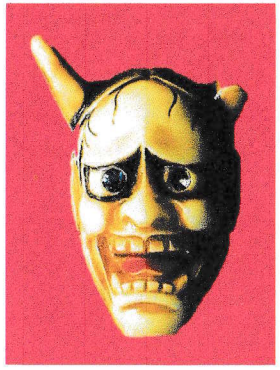
ガードマン仲間は猪八戒（怪豚）と沙悟浄（河童）
船橋・行法寺
2020/6/28.

伏見稲荷大明神を守ってにらみをきかせるキツネ
哺乳類・食肉目・イヌ科・神族キツネ属
船橋・浜町2.
正一位伏見稲荷大明神
2016/4/15.

食品工場売店招き猫
哺乳類・食肉目・ネコ科・変異ねこ属

左手を上げているのはメスで、商売繁盛良縁を期待できる豪徳寺近くを通る東急世田谷線で「幸福の招き猫電車」が走った
「フジフーズ第1工場」食堂内売店
船橋・高瀬町.
2016/4/11.

根付け般若　哺乳類・霊長目・鬼女科



般若の面にお守りの効能があるのだろうか　この面構えならテディベアをぶらさげるよりは少々の災難は追い払ってくれるかもしれない
なぜか私の手元にあるこの根付けは防波堤の役を立派に果たしたのだろう　角は折れ片目を無くしている
2020/4/10.